

放射科学実習

責任者・コーディネーター	病態薬理学講座分子細胞薬理学分野 奈良場 博昭 教授		
担当講座・学科(分野)	病態薬理学講座分子細胞薬理学分野、臨床薬学講座情報薬科学分野、アイソトープ研究室		
対象学年	3	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	実習 20時間 (10コマ)
期間	前期		
単位数	0.5単位		

・学修方針（講義概要等）

本実習では、対象者を10数名とし、2つのグループに分け（5名/グループ）、3つの項目をグループがローテーションして行うこととする。実習項目は、各種の放射性同位元素を用い、それぞれの特性と取り扱い方法の基礎を学び、測定・検出方法及びその応用方法を実習する。

・教育成果（アウトカム）

γ 線、高エネルギー β 線、低エネルギー β 線を使用し、生物活性や生体分子の検出を行い、各核種の放射活性を放射線測定器を用いて測定することにより、放射性同位元素の線源の特徴を理解し、その防護方法を実践出来るようにする。また、放射線を用いた診断・治療施設を見学することにより、最新の放射線医療の現状を理解出来るようになる。
(ディプロマ・ポリシー2, 4, 7, 8)

・到達目標（SBO）

1. 放射性同位元素の取り扱い及び防護方法を習得できる。(☆)
2. 放射性同位元素の測定原理及び測定方法を身につける。(☆)
3. 放射性同位元素を用いた生体分子の検出方法を習得する。(☆)
4. 放射性同位元素を用いた細胞機能の研究方法を体験する。(☆)
5. 放射線を利用した治療及び診断の医療現場を体験する。(☆)

・実習日程

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
7/18	金	3-4	分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 アイソトープ研究室	奈良場 博昭 教授 佐京 智子 助教 清水 津志 技術員	放射性同位元素を用いた実験の基礎 1. 放射性同位元素の取り扱い及び防護方法を習得する。 事前学修：放射化学の授業資料を復習すること。 事後学修：実験結果からレポートを作成すること。

7/22	火	3・4	分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 アイソトープ研究室	奈良場 博昭 教授 佐京 智子 助教 清水 津志 技術員	放射性同位元素を用いた生体分子に関する実験① 1. 放射性同位元素を用いた生体分子の検出方法を習得する。 事前学修：放射化学の授業資料を復習すること。 事後学修：実験結果からレポートを作成すること。
7/23	水	3・4	分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 アイソトープ研究室	奈良場 博昭 教授 佐京 智子 助教 清水 津志 技術員	放射性同位元素を用いた生体分子に関する実験② 1. 高エネルギーβ線源を用いた生体内分子の検出操作を行い、β線の特徴を理解し、その防護方法を習得する。 事前学修：放射化学の授業資料を復習すること。 事後学修：実験結果からレポートを作成すること。
7/24	木	3・4	分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 アイソトープ研究室	奈良場 博昭 教授 佐京 智子 助教 清水 津志 技術員	放射性同位元素を用いた細胞機能の解析① 1. 低エネルギーβ線を用いたトレーサー実験による細胞機能解析を行い、低エネルギー放射線の測定法、低エネルギー核種の取り扱い、防護方法などを習得する。 事前学修：放射化学の授業資料を復習すること。 事後学修：実験結果からレポートを作成すること。
7/25	金	3・4	分子細胞薬理学分野 情報薬科学分野 アイソトープ研究室	奈良場 博昭 教授 佐京 智子 助教 清水 津志 技術員	放射線診断・治療施設の見学 1. PET・リニアック関連など附属病院放射線科における放射線診断及び治療の現場を見学し、最先端の放射線医療の概要を説明することができる。 事前学修：放射化学の授業資料を復習すること。 事後学修：見学時のメモ等を確認すること。

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	放射薬品学	小佐野 博史/他	南江堂	2015

・成績評価方法

実習態度（50%）、レポート（50%）として評価する。

・特記事項・その他

・当該科目に関連する実務経験の有無 有
 本学の放射線管理主任者（第一種放射線取扱主任者）が、管理区域での実践的な教育を実施する。また、大学病院における診療放射線技師の実務経験を有する職員が、専門領域に関する実践的な教育を行う。

・予習復習のポイント
 実習あたり、各コマに対して事前に5分の予習を必要とする。更に、レポート作成のために1時間40分を確保する必要がある。このレポート作成が事後学修となる。

・本実習は、3学年前期の放射化学の授業における十分な学修を必要とするため、この授業の復習が必須である。尚、実習参加者は、放射線取扱従事者の法定講習及び健康診断を受ける必要がある。レポートに関しては、添削等を行い、フィードバックを実施する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
実習	液体シンチレーションカウンタ-(LSC-6000、アロカ)	1	低エネルギー放射線（β線）の測定
実習	吸光度計（Smartspec plus、ハイオラッド）	1	タンパク質定量
実習	CO2 インキュベーター（CPD-170 型、ヒラサワ）	1	細胞培養
実習	ハイオハザードセーフティキャビネット（AC2-2N7、ESCO）	1	試薬調製
実習	GM サーベイメータ（TGS-136、アロカ）	2	高エネルギーβ線の測定
実習	恒温槽(personal-11、タイテック)	2	RI 標識 DNA プロブの作製
実習	遠心機（スイングタイプ）（5900、KUBOTA）	1	RI 標識 DNA プロブの精製
実習	ハイブリダイゼーション用オープン（タイテック）	1	ハイブリダイゼーションおよび洗浄
実習	アクリル遮蔽板	6	放射線の防護
実習	アクリル遮蔽 box	3	試薬の一時保存
実習	ヒトブロック（TAL-1G、タイテック及び DTU-1B、タイテック）	2	RI 標識 DNA プロブの作製
実習	Nal シンチレーションサーベイメータ（TCS-161、アロカ）	1	γ線の測定
実習	ハンドフットクロスモニタ（MBR-53、アロカ）	1	汚染の検査
実習	電子式個人被ばく線量計（PDM-122B-SHC、アロカ）	2	個人被ばく線量の測定

実習	デモ用線源 (241Am、137Cs、90Sr 混合線源、アマ シヤム)	1	γ 線源
----	---	---	-------------